

**RD10 解説と全訳例**

(1) History shows that although fire is incredibly useful, it can also be destructive, and there are stories from all parts of the ancient world of whole communities being destroyed by fire.

History	shows	that	文
主	示す		何を

<文>

although	fire	is	incredibly useful
	A	=	B

it	(can also) be	destructive
A	=	B

and

there	are	stories
B	=	A

from all parts of the ancient world  
of whole communities being destroyed by fire

- ・「歴史は示している」の次の「何を？」の所にある that は「**ことシリーズ**」で名詞。
- ・「although 文1、文2」は「文1なのだが、しかし文2」の意味の「**対立**」がある。こういうのを「譲歩」の対立という。ここは「火はものすごく役に立つのだが、しかし火は破壊的でもある」だから、「useful(役立つ)」と「destructive(破壊的)」が対立しているのが分かる。「対立」があるところには「**主張**」がある。
- ・「a story from **場所**」で「**場所から**見つかった物語」。
- ・「a story of A」で「Aについての物語」。of は前置詞だから、後ろには動名詞のことシリーズが来る。
  - △私がアメリカに行くという話し  
a story of my going to America
  - △かぐや姫が竹から生まれる話  
a story of Kaguya's being born from a bamboo
  - △地域社会全体が火によって破壊される話  
a story of whole communities being destroyed by fire

【全訳例】歴史が教えてくれるのは、火はものすごく役に立つのだけれど、でも火は有害でもあるということだ。そして、古代世界のあらゆる場所には、地域社会が全部、火によって破壊される話がある。

(2) Later, by the beginning of the Middle Ages, towns began to appear in Europe with Large buildings constructed of wood.

Later

towns	(began to) appear	in Europe
主	現れ始めた	

with large buildings  
constructed of wood

- ・時間に by を使うと、by A で「Aまでに」。
- ・the beginning of A で「Aの初期」。Middle Ages は大文字の固有名詞で「中世」。
- ・began to は「～to」の助動詞型。「～し始める」の味を動詞に付ける。
- ・towns with A で「Aがある町」。with A の「前置詞+名詞」が形容詞として towns を飾っている。でも、長い飾りだから、towns から大分離れたところにある。
- ・buildings constructed of wood で「木で造られた建物」。これは a book written in English と同じで、過去分詞が形容詞になっている E T 型。

【全訳例】後に、中世の初期の頃までに、木で造られた大きな建物がある町がヨーロッパに出現し始めた。

(3) People at this time were worried about the danger of unattended fires, so many towns and villages adopted the practice of reminding its citizens to cover their fires at night.

People	were	worried	about the danger of unattended fires
↑A	=	Bされる	

at this time

so

many	towns and villages	adopted	the practice of reminding its citizens to cover their fires at night
主		採用した	何を

- ・people at this time は「**当時の人々**」。これは a book on the desk で「机の上の本」と同じで、前置詞+名詞が形容詞になった E T 型。
  - ・worry は「心配させる」の**させる系**。受け身なのに心の状態を表す進行形になる。つまり「心配していた」になる。そして、させる系は受け身でも by 以外の前置詞が来るのに注意。
  - ・danger of A で「Aに関する危険性」。of は「**関連の of**」。unattended fire で「人知れず放置された火」くらいの意味。attend は「人がつきそって注意する」で、人はする、火は人によってされるから、attended fire なら「人が注意して見守っている火」、unattended fire なら「人が見ていない放置された火」。
  - ・so は「**そう**」。ここでは「**それだから**」とか「**その結果**」の意味。
  - ・practice of reminding ~ は「**A of B ing**」だから、**同格**の of で「B という A」。ここでの practice は「練習」じゃなくて「**しきたり**」とか「**掟** (おきて)」。練習も毎日やること、しきたりも毎日守ること。
  - ・remind 人 to ~ で「(思い出させて) 人に ~ させる」。
  - ・cover the fire with water で「水で火を消す」。ここでは何を使って消すかは書かれていないだけ。
  - ★ここまでの話はとても抽象的で、具体的な町や村の名前や年代は出てこまい。「中世」には具体性はない。
- 【全訳例】当時の人々は人が見ていない放置された火の危険性を心配していた。そこで、たくさんの町や村では、住民に火を消すようにさせるという掟 (おきて) しきたりを採用した。

(4)The English king, Alfred, was so worried about fire safety that he passed a law in 876 requiring all fires in the city of Oxford to be covered every day on the ringing of a church bell at 7 p.m.

The English king =Alfred	was	so worried	about fire safety
A	=	B	

  

that	he	passed	a law	in 876
	主	通した	何を	

requiring all fires to be covered every day  
on the ringing of a church  
at 7 a.m.

- ・ so worried (そのくらい心配していた)の説明が that 以下。これは文法の授業でやったこれと同じ。  
△その箱は子供が運べるくらい(そのくらい)軽い。  
The box is so light that a child can carry it.  
The box is light enough for a child to carry.
- ・ fire safety は「火災安全」とか「火の安全」。
- ・ pass a law で「法律を通す・成立させる」。英語は左に書いてあることを右で説明する。その法律がどんなものかが requiring all fires ~以下。これは a book dealing with Japan と同じで、現在分詞が形容詞になった E T 型。
- ・ require 人 to ~で「人に~するように求める」、require 物 to ~で「物が人によって~されるように求める」これも「人はする、物は人によってされる」の鉄則。でも「全ての火が(人によって)消されるのを求めた」とやるよりも「全ての火を(人が)消すことを求めた」の方が日本語的。
- ・ 後ろは全部「いつ?」の文末副詞で、「毎日」「教会の鐘が鳴る時に」「午後7時に」の3つある。
- ・ on Aで「Aするとすぐに」。Aが動名詞になることもある。  
△名古屋に到着するとすぐに  
on arriving at Nagoya  
△教会の鐘が鳴るとすぐに  
on the ringing of a church
- ・ ringing of a church の A of B は「BがAする」の主格。

【全訳例】イギリスの王、アルフレッドは、火の安全のことをとても心配していたので、彼は876年に、毎日7時に教会の鐘が鳴ったらすぐに火を全部消すことを求めた法律を制定した。

(5)In 1068, King William extended this law, called the curfew law, to the whole of England, but he also prohibited people from gathering outside their homes after dark.

In 1068

King William	extended	this law	to the whole of England
主	広めた	何を	

called the curfew law

but	he	also prohibited	people	from gathering	outside their homes
	主	禁じた	何が	どの様にするのを	after dark

- ・ extend A to Bで「AをBまで拡大する」。a law called the curfew law は a book written in English と同じで過去分詞が形容詞になった E T 型。
- ・ prohibit 人 from 事 ing で「人が事するのを禁止する」。これは prevent 人 from 事 ing と同じで、「禁止・抑制の from」が使われている。

【全訳例】1068年に、ウィリアム王は、「消灯令」と呼ばれるこの法律を、イギリス全土に拡大適用したのだが、さらに彼は、日没後に自分の家から外に出て集合することも禁止した。

(6)This law was very unpopular because it was clearly intended to control people's movements, rather than to prevent fires.

This law	was	very unpopular
A	=	B

  

because	it	(was clearly intended to)	control	people's movements
		( [was intended] rather than )		
	主	どうした		何を

- ・ be intended to は「be ~ to」の助動詞型。「~することを目的とする」の意味の味を動詞につける。

【全訳例】この法律は不評だった。なぜなら、それは火事を防ぐと言うよりもむしろ、明らかに人の動きを制限することを目的としていたからだ。

(7)The curfew law was repealed by King Henry I in 1100, but the ringing of "curfew bells," as they became known, continued in some churches for more than seven hundred years.

The curfew law	was	repealed	by King Henry I
A	=	B	された

in 1100

but	the ringing of "curfew bells"	continued	in some churches
	主	続いた	for more than seven hundred years

as they became known

- ・ as they became known の as は「ので」の理由。主語の後ろに挿入されていて読みにくい。

【全訳例】この消灯令はヘンリー1世によって1100年に廃止された。でも、「消灯令」の鐘を鳴らすことは、それが皆に知れ渡ったので、一部の教会で700年以上も続けられた。